

愛知県感染症情報

Infectious Diseases Weekly Report

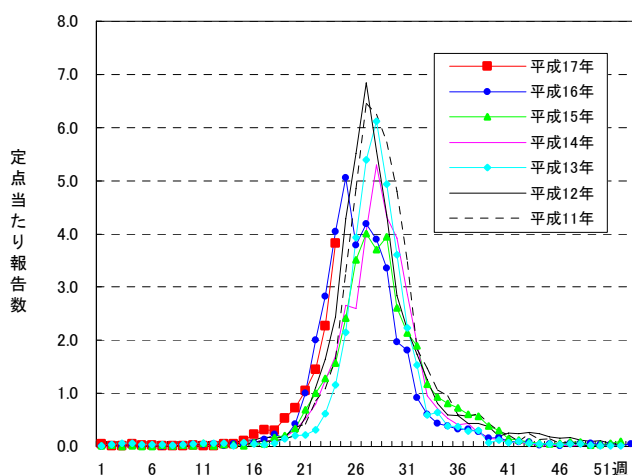
平成 17 年第 24 週(6 月第 3 週 6/13~6/19)

《作成》愛知県感染症情報センター

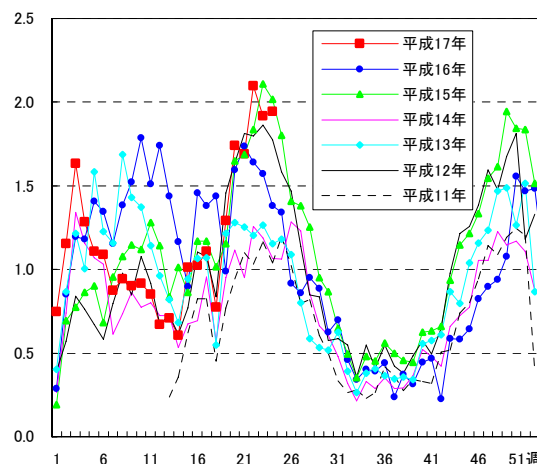
連絡先:052-910-5619 E-mail:eiseiken@pref.aichi.lg.jp

流行状況

ヘルパンギーナ



A群溶血性レンサ球菌咽頭炎



※ その他の疾病のグラフについては「グラフ総覧」(<http://www.pref.aichi.jp/eiseiken/2f/graph.pdf>)をご覧ください。

疾患名	定点当たり報告数		備考
	前週	今週	
ヘルパンギーナ	2.3	3.8	夏かぜの一つ。咽頭に赤いリングの小水疱と浅い潰瘍
A群溶血性レンサ球菌咽頭炎	1.9	1.9	レンサ球菌のうち血清型分類のA群に分類されるものによる上気道感染症
咽頭結膜熱	0.57	0.54	発熱・咽頭炎・結膜炎を主症状とする急性のアデノウイルス感染症

◆ 愛知県感染症情報 (<http://www.pref.aichi.jp/eiseiken/kansen.html>)

トピックス

予防接種

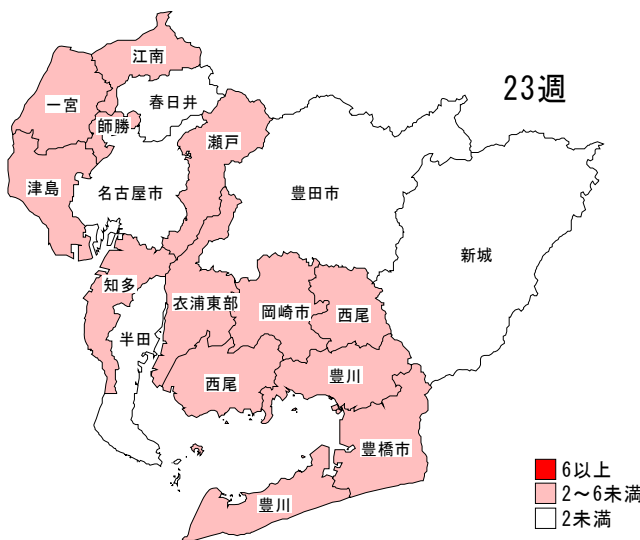
⑦ 水痘

水痘(水ぼうそう)*はヒトヘルペスの1種、水痘・帯状疱疹ウイルス(varicella-zoster virus、VZV)によっておこるウイルス疾患で、幼少児に多く発生し、感染力が強いため幼稚園などで集団発生する傾向があります。症状は発熱、倦怠感、発疹(多くは水泡を伴う:「水ぼうそう」はここから由来する)で発症、通常は軽症ですが、まれに肺炎、脳炎などを引き起こすこともあります。また妊娠後半期での妊婦の水痘の罹患は母児ともに重症化することが知られています。水痘ワクチン(生ワクチン)は日本で開発されたワクチンです。生ワクチンですので将来帯状疱疹を発症することも危惧されますが、自然感染に比べればはるかに少ないと考えられています。

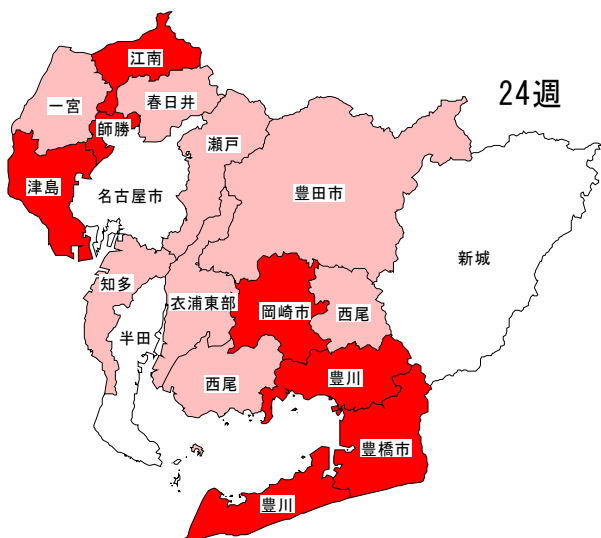
日本では任意接種で水痘既往歴のない1歳以上が接種対象ですが接種率は決して高くありません(例年25~30%、国立感染症研究所調べ)。諸外国ではその対費用効果からも幼少児の予防接種スケジュールに加える国(アメリカ、韓国、中国、ベトナム、ボリビアなど中南米諸国等)が増えており、その予防効果も高く評価されています。ただヨーロッパでは水痘ワクチンが手に入らない国も多いため、赴任国によっては出発前に日本での接種が勧められます。

- * 水痘(水ぼうそう) (<http://www.pref.aichi.jp/eiseiken/2f/suitou.html>)
- ◆ 予防接種ガイドライン (<http://www.mhlw.go.jp/topics/bcg/guideline/1.html>)
- ◆ 予防接種について (http://www.pref.aichi.jp/eiseiken/2f/yobou_week.html)

ヘルパンギーナの保健所別報告数の推移(名古屋市含む)



	24週	定点 当たり	23週	定点 当たり
名古屋市	117	1.7	77	1.1
瀬戸	33	3.7	20	2.2
津島	○ 63	9.0	34	4.9
師勝	○ 52	13.0	11	2.8
一宮	46	3.8	38	3.2
春日井	31	3.4	16	1.8
江南	○ 51	8.5	27	4.5
半田	11	1.8	2	0.3
知多	15	2.1	17	2.4
岡崎市	○ 54	7.7	30	4.3
衣浦東部	51	3.9	28	2.2
西尾	29	5.8	14	2.8
豊田市	37	4.1	17	1.9
豊橋市	○ 54	6.8	39	4.9
豊川	○ 52	6.5	41	5.1
新城	0	0.0	1	0.5



○ は今週警報が出ている保健所(市)です。

厚生労働省感染症発生動向調査警報発生システムによるヘルパンギーナの流行発生警報は保健所(市)定点当たり報告数が6人を越えた場合に発生し、2人を下回るまで継続します。警報の意味は大きな流行が発生または継続しつつあることが疑われるということです。

定点の先生方からのコメント

尾張西部地区

- 溶連菌感染症相変わらず多く見られます。感染性腸炎再びやや増加
【一宮市 あさのこどもクリニック】
- 病原性大腸菌O8 2歳女
病原性大腸菌O18 0歳女、5歳女、61歳女
病原性大腸菌O25 2歳女、3歳女
病原性大腸菌O120 4歳女
病原性大腸菌O143 1歳女
病原性大腸菌O153 7歳女
マイコプラズマ肺炎は13例 発熱のみでの来院例も多い。
溶連菌も増加しています。咽頭扁桃の発赤も認めがたく湿疹もなし。発熱も微熱という例も少なくありません。
【一宮市 城後小児科】
- ヘルパンギーナ、アデノウイルス感染症が目立ちます。
【一宮市 平谷小児科】
- ヘルパンギーナが増えてきました。
【犬山市 武内医院】
- ヘルパンギーナ多発しています。アデノ感染症、多く見られます。水痘もまだ多いようです。
【岩倉市 医療法人なかよしこどもクリニック】
- ヘルパンギーナ 増加してきました。手足口病4名ありました。溶連菌感染症、流行性耳下腺炎の流行も続いています。
【江南市 みやぐちこどもクリニック】
- 27歳女、8歳女 マイコプラズマ感染症
【春日町 丹羽医院】

尾張東部地区

- 咽頭結膜熱はやや多く、ヘルパンギーナ増加しています。
感染性大腸菌O119 6歳男
【瀬戸市 津田こどもクリニック】
- 今週はヘルパンギーナ急増しました。溶連菌感染症、アデノウイルス感染症も引き続き流行みられます（咽頭結膜熱 1例 4歳女）。
その他、アデノウイルスでもヘルパンギーナでもない高熱の症例目立ちます。
【尾張旭市 医療法人誠和会佐伯小児科医院】
- アデノウイルス感染症が続いています。
【春日井市 春日井市民病院】
- アデノウイルス感染症、水痘、続発中
【春日井市 朝宮こどもクリニック】
- 溶連菌感染症流行中。年長児のムンプスがありました。
【春日井市 かがわ北病院】
- ヘルパンギーナが増加傾向
【小牧市 小牧市民病院】
- アデノウイルス感染、水痘、ヘルパンギーナなどが目立ちます。
【小牧市 志水こどもクリニック】
- ヘルパンギーナがふえてきました。
【小牧市 医療法人心正会鈴木小児科】

西三河地区

- 6歳女、9歳女 イムノカードST StrepA(+)
5歳男 カンピロバクター腸炎
3歳女 病原性大腸菌O114
1歳男、3歳男 病原性大腸菌O25
10歳女 咽頭培養にてA群溶連菌
【豊田市 星ヶ丘たなかこどもクリニック】
- 3歳女 病原性大腸菌O126
3歳女 病原性大腸菌O25
ヘルパンギーナが多い。
【岡崎市 医療法人川島小児科水野医院】
- 水痘流行中
ワクチン打つより感染した方がよいとムンテラされる先生がみえます。
【知立市 宮谷クリニック】
- 咽頭結膜熱散発
【岡崎市 花田こどもクリニック】
- 1歳女、7歳男 病原性大腸菌O25
1歳男、3歳男、6歳男、8歳男 病原性大腸菌O1
2歳女、3歳男、3歳女、5歳男 アデノ
【岡崎市 にいのみ小児科】
- 手足口病、ヘルパンギーナが増えてきました。
【三好町 三好町民病院】
- ヘルパンギーナが増加、溶連菌感染症散発
【西尾市 やすい小児科】
- 8歳女 カンピロバクター
3歳男 病原性大腸菌O1 VT(-)
手足口病とヘルパンギーナが多いです。
【幸田町 とみた小児科】

東三河地区

- A群溶血性レンサ球菌咽頭炎とアデノウイルス感染症が時々います。
【豊橋市 医療法人こどもの国大谷小児科】
- 2歳男、7歳女 アデノ扁桃炎
【豊橋市 野村小児科】
- 水痘、ムンプス多い。
【豊川市 豊川市民病院】
- 病原性大腸菌O1 5歳男
カンピロバクター 23歳女
【豊川市 ささき小児科】
- インフルエンザA 3名は同一家族(父が中国へ旅行後発症し、感染したと考えられる)。
【田原市 かわせ小児科】

一 ～ 三類感染症の発生状況 — 愛知県(名古屋市を除く。) —

- 腸管出血性大腸菌感染症 <関連リンク>
(http://www.pref.aichi.jp/eiseiken/67f/eaggec.html#2_4)

番号	報告保健所	年齢	性別	発病月日	初診月日	診定月日	備考
1	豊田市	4か月	女		6/17	6/17	O26 VT1 (+)
2	瀬戸	15	女	6/8	6/13	6/15	O157 VT1 (-) VT2 (+)
3	知多	26	男	6/8	6/9	6/13	O157 VT1 (+) VT2 (+)
4	知多	33	女		6/7	6/13	O157 VT1 (-) VT2 (+)
5	衣浦東部	3	男	6/14	6/15	6/18	O157 VT1 (+) VT2 (+)

四類・五類(全数把握)感染症の発生状況 — 愛知県(名古屋市を除く。) —

- A型肝炎 1例(推定感染地域:ペルー) 23週報の再掲
(<http://www.pref.aichi.jp/eiseiken/2f/todokede.html#4-3>)

愛知県衛生研究所企画情報部（文責 磯村）

通勤の朝、集団登校の小学生達の傘や雨靴の黄色が目には鮮やかで、女子大のキャンパスでは色とりどりの雨傘の花が開く毎日です。いつも貴重な情報を有難うございます。6 月前半のまとめをお送りします。

- 1) 名古屋市内：名鉄病院福田先生からは感染症は全般的に減少、感染性胃腸炎とヘルパンギーナが比較的多く、水痘は例年通り、感染性胃腸炎の重症例とヘルパンギーナを主体とする急性咽頭扁桃炎の重症例の入院が目立ち、マイコプラズマ肺炎はほぼ一定数の入院あり、城北病院渡辺先生からはマイコプラズマと水痘患者（幼稚園で流行中）が多く、ムンプス散発中、サルモネラ腸炎が少し増加、発熱患者が少ないためかアデノ陽性者も少なく、ヘルパンギーナは殆どなく川崎病が少し多い、第二日赤岩佐先生からはムンプスが散発中、千種区今枝先生からは咽頭結膜炎、ヘルパンギーナ（頭痛、嘔吐あり）、感染性胃腸炎、急性喉頭炎各 1 名あり、三菱病院入山先生からは A 群溶連菌感染症 12 名（4 名入院）と目立ち、感染性胃腸炎 5 名（病原性大腸菌 O-1 が 1 名、O-25 が 2 名、カンピロバクター 2 名）、うち 2 名入院、咽頭アデノウイルス感染症の要入院例 1 名 10 か月女、マイコを含む肺炎の入院 5 名ありとのお手紙でした。
- 2) 尾張地区：犬山市武内先生からは A 群溶連菌咽頭炎、感染性胃腸炎、水痘、ムンプス、手足口病が各々散発中でヘルパンギーナも散見する、常滑市民病院上田先生からはサルモネラなどの感染性腸炎（感染性下痢症の入院目立つ）とムンプス（ムンプス髄膜炎の入院目立つ）、溶連菌感染症、咽頭結膜熱（入院が目立つ）、マイコプラズマ肺炎の入院、ヘルパンギーナなどが目立つとのお手紙でした。
- 3) 三河地区：加茂病院梶田先生からはムンプスと水痘がコンスタントに流行し、インフルエンザ A が週に 1 人位あり、マイコプラズマ感染症がやや多くグループが 5 月下旬から増加、ロタウイルス腸炎がまだ僅かにみられる、刈谷市田和先生からは水痘と感染性胃腸炎（ロタ陰性）がときどきあり、碧南市永井先生からはムンプス、水痘、溶連菌感染症が目立つ、豊橋市からはアデノウイルス咽頭扁桃炎、水痘、ムンプスなど少数ありとのお手紙でした（市内長屋先生、宮澤先生）。有難うございました。

2005 年 5 月 27 日（80 巻 21 号）<http://www.who.int/wer/2005/wer8021/en/>

☆ 航空機旅行の留意事項：航空機による旅行が一般化して最近目立つ傾向に①乗継ぎなしの長時間フライト、②乗客の数の増加、がある。国際民間航空機構によれば 2000 年の年間利用者数は 164.7 億、テロと SARS のため翌年は減少したが再び増加、2015 年まで年間 4.4% の伸びが予測されている。本報は 05 年 1 月、WHO から出版された医家用の勧告 (<http://www.asma.org>) のまとめである（筆者注：かなり長文。出来るだけ簡潔にした）。まず、何らかの健康上の問題をもつ人は担当医に事前に相談し助言を得ること。下記の事項がポイントとなるであろう。1) 客室の気圧が低い：健康人であれば十分耐えられるが①心肺機能障害や貧血がある場合、低酸素血症が問題となる。事前に乗務員に連絡して酸素供給の準備を。②急激な気圧の低下による耳閉塞感と耳痛。飲込み動作、あくび、乳児であれば哺乳。中耳炎や副鼻腔炎は治療しておく。③開腹手術後や網膜剥離凝固療法直後の場合、旅行可能な時期について担当医と相談すること。2) 客室の低湿度と脱水：通常客室の湿度は 20% 以下（普通の家屋では 30% 以上）で皮膚、目、鼻の不快感はあるが健康には影響しない。コンタクトレンズよりは眼鏡を。脱水に陥るほどではないので特別な準備は不要。3) オゾン：高度上昇につれてオゾン濃度増加が懸念されるが最近の航空機ではオゾン分解装置が付き、客室では問題ない。4) 宇宙放射線：高高度の航空機の方が地上よりは落下放射能は多いが健康上問題ない。5) 飛行機酔い：以前乱気流でひどい酔いを経験した場合は座席を中央にしてもらい、酔い止めを準備すること。6) 深部静脈血栓症（エコノミークラス症候群）：周知のように長時間筋肉の運動をせず姿勢を固定していると静脈血流停滞、深部静脈血栓症（DVT）をおこす。車両や列車と航空機で差があるか WHO は調査中。無症状のこともあるが下腿部のだるさ、腫脹、疼痛、肺塞栓による胸痛と呼吸困難、時には突然死をもたらす。発病は旅行後数時間、時に数日後の例もある。危険因子は①DVT や肺塞栓の既往、②家族歴、③経口避妊薬使用、④妊娠、⑤腹部、骨盤内、下肢の手術後、⑥癌、⑦遺伝的血液凝固異常症、であり注意事項・勧告として①客室を歩く。危険があるので常識範囲で：2～3 時間ごとにトイレに行く、など。②着席中下肢の運動。③荷物を足元に置かない。④着衣は緩めに。⑤危険因子が多く発病が危惧される場合へパリン注射が考えられるが自己注射の訓練が必要。7) ダイバー：気圧の変化を考慮するとダイビング後は 12 時間、搭乗禁止。8) ジェットラグ（時差ぼけ）：体内時計と関連した生理的現象。対策は①出発前の休養、機内での短時間の昼寝が有効。②機内の食事は軽く、飲酒も控えること（尿意で睡眠出来ないし、アルコールで不眠となる）。③到着後は現地時間の生活にする。外出して日光に当たること。④飛行中の入眠剤使用も考える。⑤メラトニン内服が有効とされており一部の国で入手出来るが長期連用の安全性が確立していないことと製法や製剤の品質管理が未定で WHO としては推奨しない。9) ストレス、不安：担当医による投薬も考慮する。10) 搭乗拒否：航空機、搭乗員、乗客の安全が侵害される事態が予測される場合、航空会社は搭乗拒否が出来る。11) 新生児：生後 7 日まで、未熟児では 7 日すぎても原則として搭乗不可能。12) 妊婦：妊娠 28 週以降の妊婦は医師、助産師の妊娠経過が正常であることと出産予定日の証明が必要。初産で妊娠 36 週末まで、経産婦で 32 週末まで搭乗可能。13) 喫煙者：殆どのフライトが禁煙。ニコチンパッチなどを考慮。14) 身体障害者：原則として搭乗可能。

但しトイレなど介護を要する場合、クルーはそこまで訓練されていないので介助者の同乗が必要。事前に航空社と相談すること。15) 感染症対策：①客室は1時間に20～30回、High-efficiency-particular-air(HEPA)フィルターを通して50%換気。この条件でインフルエンザなどの乗客間感染の危険は一般の交通機関と同様と考えられる。②発熱など他の乗客に感染する疾患が疑われる場合は旅行延期。航空会社は乗客が感染症罹患が疑われる場合搭乗拒否が出来る。16) 殺虫剤散布：マラリアや黄熱など媒介蚊対策として重要。いくつかの方法がとられているが①離陸直前、乗客搭乗後に客室内に速効性殺虫剤散布、②乗客搭乗以前に残留性殺虫剤を散布して飛行中に速効性殺虫剤散布、③食餌準備室以外の機内全域に残留性殺虫剤定期的散布。17) 搭乗禁忌：①上記の新生児と妊婦。②他に担当医が不適とみとめた者。

☆ 5月20～26日届出。コレラ：サントメプリンシペ、セネガル、日本（輸入例）。

2005年6月3日（80巻22号）<http://www.who.int/wer/2005/wer8022/en/>

☆ コレラ。セネガルの最新情報：05年5月16日～22日。保健省発表。766例（死亡8）。前週より増加。同省はWHOの支援で対策強化中。

☆ マールブルグ出血熱。アンゴラの最新情報：保健省発表。5月25日時点で399例（死亡335）。ウイジェ州に集中（388例で死亡324）。同州で移動車調査グループが面接調査中で患者と接触のない発病者あり、調査網の精度が問題となっている。強力な教育キャンペーンが地域宗教指導者、赤十字ボランティアを中心に展開中。

☆ ポリオ。イエメンの最新情報：05年5月29日保健省発表。確認例71例追加。これまでと同一地区。2月25日の初発例以降急性弛緩性麻痺例増加。当局は全国の5歳以下小児全員にワクチン緊急接種を5月30日に実施、7月11日にも実施予定、同時にサーベイランス網強化。

詳細は<http://www.polioeradication.org/>。

☆ 安全な水供給国際10年間戦略05-15：安全な水供給の重要性と強力な国際的活動の重要性を強調。目標は①貧困と飢餓の根絶、②初等教育の普及、③男女平等と女性の権利拡大、④小児死亡率減少、⑤母性健康増進、⑥HIV/AIDS、マラリア等に対する戦い、⑦環境保全、⑧国際協力進展。これらの目標に対して05年6月3日、WHOはユニセフと共同で開発途上国の5歳以下小児を中心に作戦を開始した。最近の研究では①水供給改善で下痢の罹患率が25%減少、②環境整備で下痢罹患率32%減少、③環境整備と健康教育（例：手洗い）で下痢罹患率45%減少、④消毒など家庭使用水の安全化で下痢罹患率39%減少、の報告があり、本報では今後この作戦を展開する上での問題点などが詳細に述べられている。

☆ 5月27～6月2日届出。コレラ：コンゴ共和国、リベリア、セネガル、日本。

愛知県感染症情報

2005年第1週～第24週(平成17年1月3日～平成17年6月19日)(累計)

愛知県衛生研究所

年齢階層 (名古屋市を除く)	RSウイルス感染症	インフルエンザ(高病原性鳥を除く。)	咽頭結膜熱	A群溶血性レンサ球菌咽頭炎	感染性胃腸炎	水痘	手足口病	伝染性紅斑	突発性発しん	百日咳	風しん	ヘルパンギーナ	麻しん (成人麻しんを除く。)	流行性耳下腺炎	急性出血性結膜炎	流行性角結膜炎	細菌性髄膜炎	無菌性髄膜炎	マイコプラズマ肺炎	クラミジア肺炎 (オウム病を除く。)	成人麻しん	
計	100	63,745	898	3,564	17,413	6,249	838	426	1,993	21	5	1,626	9	3,613	6	459	5	3	139	0	0	
～6ヶ月	50	319	9	8	257	159	12	1	134	6	1	13		3		3						
～12ヶ月	22	958	41	21	1,126	397	56	22	1,104	2		116	1	17		3						
0歳																	2		4			
1歳	15	3,279	169	108	2,663	1,058	196	27	696	2	1	406	1	150		15			18			
2歳	10	3,674	122	187	1,812	1,024	157	21	52	2		305	1	328	1	21			21			
3歳		4,334	203	379	1,597	1,286	144	38	6	2		287	1	569	1	28	1		19			
4歳	1	5,537	164	654	1,461	1,065	118	62		1		226	1	745		18			14			
5歳	1	5,473	79	736	1,232	625	74	59			1	130	2	634		12						
6歳	1	5,343	45	490	891	277	29	60		1		62	1	449	1	4						
7歳		4,021	15	328	668	137	12	41			1	30		233		3						
8歳		3,659	13	199	541	70	8	33				20		164		6						
9歳		3,188	8	141	440	38	7	26				9	1	95		3						
5歳～9歳																				35		
10歳～14歳		5,825	13	176	1,071	77	6	27	1		1	18		146		9			10			
15歳～19歳		992	1	13	380	9		1				1		10		6			1			
20歳～			16	124	3,274	27	19	8		5		3		70			2					
20歳～29歳		4,268														63		1	2			
30歳～39歳		6,134													1	129			4			
40歳～49歳		2,630														42		1	2			
50歳～59歳		1,854													2	35		1	2			
60歳～69歳		1,147														32			3			
70歳～																27						
70歳～79歳		676																	3			
80歳以上		434																	1			